

山地災害防止

5月20日(日)

～6月30日(土)

キャンペーン



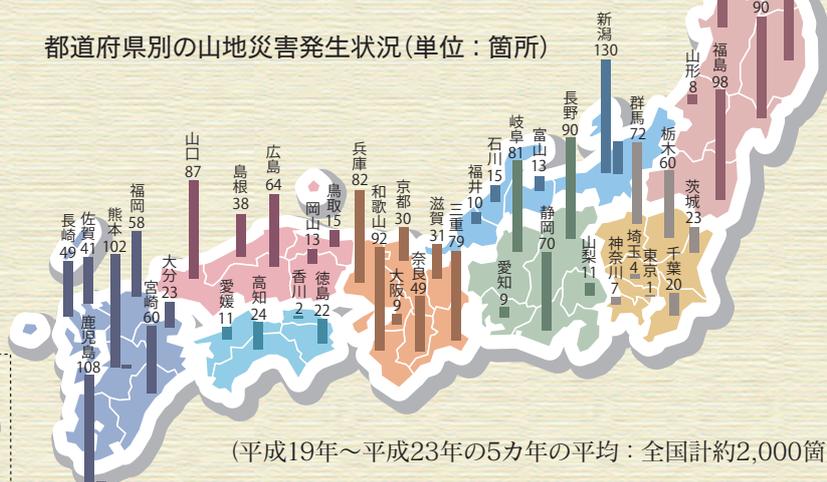
我が国では毎年約2000カ所(平成19年～23年の5カ年の平均)も
の山地災害が発生し、人命や財産に
大きな被害をもたらしています。

林野庁では毎年、山地災害の起こ
りやすい梅雨の時期に国民の皆様
に山地災害防止に対する理解と関心を
深めていただくことを目的に「山地
災害防止キャンペーン」を実施し、さ
まざまな活動を進めています。

山地災害の多い国土

日本の国土は、険しい山が続く複雑
な地形をしています。また、川幅は狭
く、急流が多いのが特徴です。プレ
ートの境界に位置しているため、地震や
火山活動も活発で、山崩れや土石流、

都道府県別の山地災害発生状況(単位：箇所)

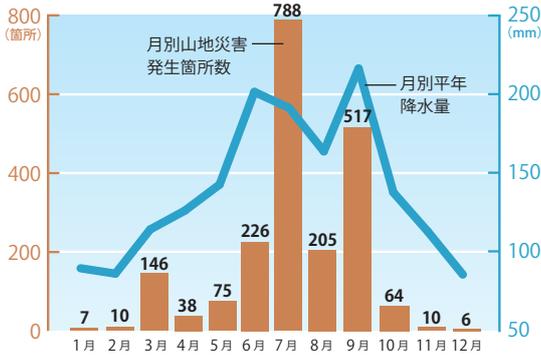


(平成19年～平成23年の5カ年の平均：全国計約2,000箇所)

地すべりなど山地災害の危険を常に抱
えています。

また、年間降雨量は世界平均の約2
倍(約1700ミリ)と、きわめて雨が多
く、特に梅雨期や台風の時などには局
地的な集中豪雨により、各地に大きな
災害をもたらしています。雪どけ期に

月別の降水量と山地災害発生箇所数



※月別平均降水量は、理科年表(平成15年)から作成。
山地災害発生箇所数(全国)は、平成19年~23年の平均。



治山技術者による現地調査



中学校のグラウンドを守る治山施設(岐阜県八百津町)



平成23年7月新潟・福島豪雨による被害(新潟県南魚沼市)

は河川の増水やなだれの危険も高くなります。さらに近年では、地球温暖化の影響等によって局地的な豪雨が頻発しているほか、昨年の東日本大震災等地震による地盤のゆるみが原因の山地災害の発生増加が懸念されます。

山地災害は、ある日突然やってくる。自らの生命と財産を守るため、日頃から防災への理解と関心を深めるとともに、災害に対する備えをしておくことが重要です。

林野庁では、5月20日(日)~6月30日(土)に「山地災害防止キャンペーン」を実施し、各都道府県・市町村と連携して、山地災害を少しでも軽減させるためにさまざまな活動に取り組みます。

主な活動内容

「山地災害防止キャンペーン」では地域の皆さんと連携して、山地防災に関する情報収集や周知活動をはじめとしたさまざまな活動を行います。

今年度の山地災害防止標語は「きのねっこ ほくのまちを まもってる」です。各都道府県と市町村では、キャンペーンポスターの掲示やパンフレットの配布など、地域の皆さんを対象に山地災害の未然防止を目的とした広報活動を実施します。また、治山事業の重要性を知っていただくため、治山事業施行地の見学会等を開催し、防災意識の普及・向上を図ります。

さらに保安林の機能を損なう無断転用等を防止するため、保安林制度の周知や保安林の巡視などにより、適切な管理に努めます。

山地災害危険地区等の周知

山地災害による被害発生を防止するためには、地区住民の皆さんが日頃から身近にある山崩れや土石流、地すべりなどの起きやすい危険な場所や、台風や大雨の際の避難場所を知っておくことが重要です。

各都道府県等では、山地災害発生のおそれがある場所を「山地災害危険地区」として把握。



山地防災ヘルパー研修会での応急工事実技研修

「山地災害防止キャンペーン」では、こうした情報をより多くの方に役立てていただけるよう普及させるとともに、災害発生時の警戒避難体制整備に寄与できるよう努めます。

この情報を避難場所などの防災情報とともにホームページや防災マップに掲載して、地域の皆さんの防災活動や避難に役立てられるようにしています。